

- ◆企画名 ウィンターワーク 2016  
 日程 2016年11月15日(火)  
 場所 第4学舎 4003教室  
 参加者数 12名(ピア・サポータ5名、研修生3名、学生支援室TA1名、職員3名)  
 目的

- ・コミュニティ間の交流を促進し、サポータ同士のつながりを深め、今後の円滑なピア・サポート活動につなげる。
- ・サポータにスキルアップの場を提供し、今後のピア・サポート活動の中で活用してもらう。

### 内 容

《本部ワーク「褒めることでモチベーションをあげよう」》

まず、個人でモチベーションをあげる、もしくは維持する方法を考えてもらい、その後グループでそれぞれの意見を共有し、出た意見を模造紙にまとめて発表してもらった。

次に、今回のワークのメインである、「褒める」ということでモチベーションをあげることに着目し、「褒める」スキルを学べ、さらに他コミュニティとの交流も促進することができる、カードゲーム方式の「褒めゲーム」を行った。

※当初の計画では、11月25日にTAさんによるワーク「話に引き付ける技術」を予定していた。しかし参加者がほんの少ししか集まらず、当初予定していた人数に満たなかったため、今回は中止とし、11月15日の本部ワークのみの実施とした。

### 効 果

- ・参加者人数は決して多いとはいえなかったが、少人数の利点を生かし、参加者同士で交流を深めることができ、サポータ同士のつながりができた。
- ・ワーク後に行ったアンケートでも、他のコミュニティの方から今後のピア・サポート活動に活かそうと思うという感想があったため、目的の一つであったスキルアップの場を提供するという点が達成できた。

### 改 善 点

- ・時間の都合によりアイスブレイクを自己紹介のみにしたため、初対面のサポータとの打ち解けに時間がかかった。短い時間でより打ち解けられるアイスブレイクを考えていく必要がある。
- ・前日までにすべき用意やグループワークの班分けができていなかったため、準備が慌ただしかった。準備は前日の時点で終わっているようにする必要がある。
- ・実施場所でのリハーサルができなかったため、机や椅子、スクリーンの配置が分からなかった。次回からはリハーサルでも当日と同じ場所で行うように調整すべきだと考えられる。
- ・スクリーンが座席側から見ると見にくい場所にあったため、参加者が椅子を移動させるという手間が生じてしまった。次回からは準備のときに座席側からの視点も重視する必要がある。
- ・サマーワークと比べると他のコミュニティからの参加者は増えたものの、まだまだ参加者は少なかった。参加者募集の告知方法や応募方法などをより工夫していく必要がある。

### 感 想

- ・サマーワークの反省点を活かし、担当者間でうまく連携して企画を行うことができたと感じた。
- ・サマーワークと比べると他のコミュニティの参加者は増えたので良かったと感じた。この調子で、今後このような企画を実施するにあたり、より多くの方に参加してもらい、他のコミュニティとの交流を深めていきたいと思う。